

# 白門経友会

## 経済学部活動状況について

年が改まり、中央大学では早や試験期間を迎えようとしています。学生達は寒波に負けず、最後の追い込みに頑張っております。

さて、今回は最近の本学部のゼミの活動について紹介させていただきます。

12月20日に立川観光協会・たちかわまちの案内人運営会議に、経済学部唐成教授とゼミの学生が出席し、



ゼミ生が「中国人観光客を日本のファンに」ミクロデータから見えたりピーターの可能性」とのテーマで研究成果(プレゼンテーション大会2017観光部門優勝)を発表いたしました。

山崎朗教授のゼミ生が野村総合研究所の小論文コンテストで奨励賞を受賞しました。

「地方の課題をイノベーションで解決する。」をメインテーマとして開催された第12回NRI学生小論文コンテストにおいて3年生の中山裕太君の論文「地方の産業改革」が、応募のあった106本の論文の中から奨励賞に選出されました。

林光洋教授のゼミ生が、「UNICEF WEEK 2017ーユニセフとともに考える国際協力ー」という全体テーマで11月28日(火)から3回にわたって参加しました。

このイベントの契機は、2016年に開かれた大学生向けワーク

ショップで東京大学、上智大学、明治学院大学、本学の学生が競い合い、林ゼミが「ユニセフ・ウィーク」を提案して優勝したことによります。以上、一部のみの紹介ですが、今後の経済学部のゼミ生たちのさらなる研究の進展と外部との連携による活躍が期待されます。

なお、本学部の強みである演習(ゼミ)のシステムは、1年が入門演習、専門演習は2年後期から3年が通年、4年後期となっておりますが、さらなる充実化を図るために、2018年度から2年次の「演習1」の開講期間を「半期(後期)」から「通年」と改正いたします。



## 元助教・森朋也さんのこと 〜あっぱれ〜

常任幹事 高梨 明宏(S43卒)

私は本学に奉職して41年、9年前に退職しました。今も学生との良き思い出は尽きません。経済学部事務室勤務の45歳から4年間は、就職希望の学生にエントリーシートのアドバイスや面接でのコツを話、随分と沢山の学生に優良企業に結果を出したことがあります。また、単位の取れないスポーツ選手に専門科目の勉強の仕方を話、本人も頑張り、見事4、5年の2年間で卒業したボクシング部の学生ウェルター級チャンピオンもいました。

その後、広報部へ移動となりましたが、私の話を聞かせに関東一円から多くの高校の先生が生徒を連れてやって来ました。埼玉県のある県立高校1年末の生徒さんから、「僕は茶髪で不良で落ちこぼれです、何とかありませんでしょうか」というメールを頂き、メールのやり取りだけで塾や予備校に行かず、2年後最後の模試で校内800人中3番になった人がいます。また一浪で偏差値45の人が、二浪独学で東大合格圏内になり、一橋商学部合格し、上

の中の成績で卒業した人もいます。随分と多くの高校生や受験生の人生を変えたと思つていますが、その中でも森朋也さんとの思い出は心に残るものがあります。

### 出会い

私の退職する3年前前、彼が高校2年最後の3月末に多摩校舎見学に来られ、私が偶然対応し80分程お話ししました。今も鮮明に記憶にあります。大学の自慢話はせず勉強の仕方のお話はかりでした。彼は経済学部か商学部に興味がありました。私は、経済学部は知的に刺激される科目も多く面白い、と勧めました。また、受験勉強も大学の勉強も「仕方」は同じなので、大学に入ってから私の勉強法を続ければ大学教授も夢ではない、と言いました。感心してニコニコ嬉しそうに聴いていました。最後に訪問者カードを見て驚き…、なんと私の子供時代に住んでいた港区高輪二本榎商店街の隣家の和菓子のお舗、玉川屋さんの息子さんでした。

### 飛躍

1年後に見事経済学部合格。それから予習や通学時間を宝の山にして、大学院へ進み、ドクターコースも終え、昨年4月から山口大学教育

学部専任講師になりました。実力は本物です。やがて論文を沢山書けば教授になり、将来、中央大学へ戻れば学部長、学長も夢ではないと思えました。

### 奇遇中の奇遇の話

朋也さんのお父さんは若い時、家業を手伝いながら中大商学部を卒業されました。入学手続きの時(昭和50年4月上旬)、学部事務室で偶然私が窓口対応しました。学生証の住所を見て驚きました。その朋也さんのお父さんが生まれた時は、私は高輪台小の5年生。初めて後継ぎができたとお父さんは大喜びで、お店の前でニコニコしながら抱っこして夕涼みをしていた記憶が、今も何故か鮮明に記憶にあります。後継ぎの男の子が生まれると父親はこんなにも嬉しいものか、と子供心に感心して眺めていました。昨年も、清正公様(加藤清正公寺院)の5月のお祭りに行き、玉川屋さんにお柏を買いに寄りました。両親がわざわざ出て来られ大変な喜びようで、とても感謝されました。このような嬉しい話は今後ないと思う程です。

め多くの先生方のご指導の賜物です。本人も大変努力されたと思いますが、先生方の指導に付いていける資質を多少なりとも私が高校生の時に影響を与えられたかな、と勝手に思い喜んでいきます。

### 朋也さんからのコメント紹介

研究生生活の中でも、受験期の知識とその勉強方法が生きている部分があります。もちろん、研究は新しいことを明らかにしなければならぬのですが、そのためにはたくさん知識を蓄積する必要があります。また、たくさん英語の論文を読むためには、基礎となる英文法の知識と読解力が必要です。やはり受験期の努力と大学での勉強が今の自分のベースにあると思います。正しい方法で、あきらめずにコツコツと努力すれば、きっと成果が得られる。この記事を読んだ在学生が多くの学を得られるよう願っています。

### 余談

私の後輩に松下元則さんという総合政策学部一期生がいます。彼が大学1年から五葉会(禪)の後輩なので面識がりましたが、学生時代は理に適った勉強を続け、学問が面白くなり一橋大学商学研究所のドクターコースに進み、今は福井県立大

学准教授です。私に今年の新年のメールで「予習の習慣は、一生もの知的基盤だと思えます。学生が卒業までに身につける能力のなかで、最も大切なものの一つだと考えて、私はゼミや講義を行っています」と述べられました。素晴らしい先生ですね。これを身に着けず大学を卒業することは、学費を工面してくれた父母に申し訳ない、と思つべきです。理に適った勉強は結果を生む。

徳島県立城ノ内高校の昨年春卒業生進路で、国立大学合格者がいきなりの4割増し(110→155人、生徒数233人)の結果が出ました。このように躍進したケースは過去聞いたことがありません。今から3〜4年前の10月中旬、この学校に二度講演に行きました。話の相手は中学3年と中高の父母でした。残念ながら高校生には話す機会がなかったので、私からアマゾンに出した2冊を進路の先生に送り、それをプリントして各クラス3冊、図書館に10冊置いて、更にクラス担任にメールで転送し読んでいただき、また希望する生徒には担任から配信するよう頼みました。これを高校の父母会の講演会で私からもPR。この時の2年生が10月以降

に読み、昨年の結果になりました。因みに、退職直前の10年前、7月中旬にもこの高校1・2年生に講演に行きました。この時の1年生の中から、東大医学部に塾や予備校に行かず現役合格者が出ました。進路の先生がこの生徒にどのような勉強法をしてきたか質問したところ、私のお話した「主科目予習：教室で理解、通学時間を宝の山、家に帰って問題集で本当に理解したか確認する」というものでした。

**専門科目にも勉強の仕方がある**

欧米の大学でも予習が絶対的な義務で、それを徹底して要求されます。東大や医学部合格者が多い開成高校でも、予習が前提の授業です。私の頃はそれが当たり前でしたが、厳しく言わない先生が多くなり日本の教育が崩れてきた感があります。しかし、当時でも私の言う英語の勉強法とか、専門科目の教科書の印のつけ方、読み方、合格答案の書き方を教えてくれる先生はいませんでした。

私が大学3年10月末、五葉会(禅)の杉浦先輩が司法試験の勉強を始めて2年で短期合格し、しかも成績優秀で検事になりました。短期合格する人は勉強法が理に適っているはずと思い、質問しました(後述)。そ

の勉強法を私が実践したら、11月12月に会社法、手形小切手法が面白くなり、2か月の勉強で何処から出題されても「優」を取ってやる、というレベルになりました。期末試験で書き終えた時は司験でも合格するかな、という手ごたえでした。その前は、ザルで水をすくうが如く暗中模索の勉強状態でした。因みに28年前、司法試験の択一合格者数人論文(不合格)に話したところ、「目から鱗」と歓喜されました。

**① 予習は理解するために全てに勝るベストの方法**

○各教科の専門科目には、それぞれ沢山の専門用語がある。それを事前に読んで理解し、ストーリーもあ



る程度掴んでおかなければ、講義は理解出来ない。授業中に居眠りの出る原因となる。

○後から教科書を読んだのでは、暗記に走る勉強に陥り易い。

○日々予習をして行けば、それだけ授業中の理解度が増し：集中力も付き、知的好奇心も育ち、授業が面白くなり、良い循環となる。この様な勉強を積み重ねれば、司法試験も公認会計士試験も射程内に入る。

**② 教科書の読み方：知ると知らないでは大差**

○節や章の「はし書き」は、当たり前だが書かれていると読み飛ばさずに、何十回も読んで自分の言葉で置き換えられるようにする。試験ではこのはし書き部分を数行書いた後、設問に答える。同じ様な答案内容でも、問題の核心を押さえられるので評価は格段と高くなる。

○このはし書き部分をレンズと考え、レンズを通して節や章の詳細を常に読むように工夫する。新聞を読めば、大きなテーマの記事には必ず7〜8行のはし書き(導人)がある。これを手で隠しその後をいきなり読めば理解しにくい。はし書き部分を読んで詳細を読めば、誰でも理解が容易。これが教科書の理解の仕方と

合格答案の書き方。

○初めて教科書を読む時には、自分が重要と思った箇所にはいきなり赤や青の線を引かない。Bの鉛筆で引の外に小括弧、中括弧、大括弧の印を付けるのみ。教科書を読み返すごとに理解が深まり、大切と思うポイントが変わっていくもの。理解度に応じて大事な部分の印が変わる。消えにくい赤青の誤った線は、後日目障り極まりない。また下手に線を引く習慣はその文言の暗記に走り、本来の理解の勉強から遠ざかる危険性が大となる。

○参考資料のコピーがあれば、関連するページを付して教科書に挟める。これにより教科書がより内容濃く、整理される。

**著書紹介：勉強の結果は仕方です**

「心と頭の良くなるお話Ⅰ・Ⅱ」で、アマゾン電子図書です。これは高校生、受験生のみならず高校の先生のバイブルにもなっています。大学生が読んでも参考になります。勉強のできる人は、理に適った勉強を続けているから、結果が。その方法を真似すれば良いだけです。ご参考、ヤフーで「高梨 水持先生」と検索、読まれたし。

## え、あの先生が シリーズ⑳

経済学部助教 村上 弘毅



平成29(2017)年度より中央大学経済学部に着任させていただきました村上弘毅(むらかみひろき)と申します。経済学部において、「基礎マクロ経済学」、「演習」、「経済入門」、「総合講座Ⅲ」の講義を担当させていただいております。ポスト・ドクターであった昨年度に、日本大学で非常勤講師として初めて教鞭をとる機会がありました。専任教員として勤務するのは、中央大学が初めてですので、着任した今年度の前期は、緊張感を抱きながら業務を行っておりました。おかげさまで、最近では、職場に慣れつつあり、充実感とともに日々の教育および研究にあたっております。

今年度専任教員として着任させていただいた私ですが、大学院生であった4年前より中央大学に研究会報告等でお世話になっておりまし

た。その頃から、多摩キャンパスを訪れ、その環境の良さに触れるたびに、「将来、機会が与えられれば、このような大学で働きたい」ということもないであろう希望を抱いておりました。そのため、現在の職場で働くことができるということにこの上ない喜びを感じております。

さて、着任以前に中央大学に感じておりました環境の良さは、主に自然環境の良さでありましたが、着任後は、それに加えてほかの環境の良さがあることにも気付きました。

まず一つは、教育環境の良さです。留学用のプログラムの充実にも驚かされましたが、何よりも驚いたのは、学生が非常に勤勉であることです。今年度、200人超の大人数講義も必修でない科目の講義も担当させていただきましたが、出席確認を行わずとも、常時7割から8割の出席率を保っていました。学部時代に講義に(それほど)熱心に出席せず、またしなくてもよいと思っていた私は、毎回の講義で、出席率の高さに感心するとともに、これまで抱いていた自分の大学生生活に対する認識を改めなければならぬと思うようになりまし。学生が勤勉であるために、教員である私も自然と講義準備に注力するようになりました(着任前まで趣味として行っていた水泳に行かない口実を授業準備にしようとする必要があまりありませんが、これはまた別の機会にさせていただきますと思います)。講義は、学生との対話があつて初めて成立するものですから、学生の勤勉さには、とても感謝しております。

中央大学のもつもう一つの良い環境としてあげさせていただきたいのは、研究環境です。他大学と比較しても研究費が多く支給されることもさることながら、図書館が充実していることも中央大学の美点であると思います。広大な中央図書館に加えて、ほとんど全学部図書館が設置され、また、蔵書数も、比較的多いとされる国立大学と比べても遜色ないことは、研究を行う上で非常に幸せなことであると思います。実際に、私も研究資料の収集で図書館には大変お世話になっております。また、広大な中央図書館で勉学に励んでいる学生を見ることは、研究を行う上で大いに刺激を与えてくれます。

以上のように、中央大学にはいろいろな意味で良い環境があることに気が付かされました。この恩恵を受けられることができることに感謝をしつ

つ、それを成果として還元することができるよう邁進してまいります。と思います。

## 編集後記

新しい年となりました。本年もよろしくお願いいたします。

本号では高梨さんに、中大経済学部大学院から山口大に就職された森さんの思い出話を通じて、勉強の極意を語っていただきました。学生たちにはぜひ読ませて実践させたいことばかりです。また、卒業生の活躍の話も、学生、OBにとつてよい刺激になります。今後も会報でこうした話題を取り上げ、教員、OB、学生の三者の交流の場となるよう務めたいと思います。皆に伝えたい話題がありましたら、是非ご連絡下さい。

(幹事長 濱岡 剛)

2018年1月25日 第67号

発行 白門経友会常任幹事会

編集 白門経友会編集委員会

〒192-0393

東京都八王子市東中野742-1

中央大学経済学部内

URL: www.wg-keiyukai.com

Fax: 042-673-3425